

Mランドニュース Vol.171

丹波ささ山校 令和3年7月1日発行

発行 (株)篠山自動車教習所 〒669-2436 兵庫県丹波篠山市池上569
TEL. 079-552-0815 FAX. 079-552-3940 発行責任者 井本 徹
<https://www.sasayama-ds.com/> E-mail info@sasayama-ds.com

今月の言葉

いかに、ささやかなことでもよい、とにかく人間は他人のために尽くすことによって、はじめて自他ともに幸せになる。これだけは確かです。

森 信三先生

丹波篠山の若いちからに

共育チーム 南勝 宏幸

六月九日(水)、丹波篠山市主催の「幸せしごとフェア」(高校生対象企業紹介フェア)が、四季の森生涯学習センターで開催されました。

今年、地元企業三十社と高校生約八十名が参加されました。

開催に伴い、丹波篠山市市長 酒井隆明様のごあいさつの中で「丹波篠山市は、日本農業遺産認定をはじめ、最近では東京オリンピック聖火ランナーリレーなど、さまざまな場面で注目をされています。これからの将来を担う若い皆さまに、まだ知らないたくさんさんの魅力を知っていただきたい」というお話がありました。



酒井市長のお話しに聞き入る学生さんたち

私たちも、丹波篠山で自動車教習所として続けていくためには、若い力は必要不可欠です。

高校生の方々の将来を見据えた質問や、将来に不安を抱きながらのご質問に、私の経験などを踏まえお話しさせていただきました。



熱意あるご質問に、熱意でおこたえます

「自動車教習所」はインストラクターが怖い。人に運転を教えることの難しさ。また、仕事のイメージは華やかさもなく、若者うけは正直薄いようです。

そんなイメージを持ち、説明を聞きにこられる皆さまに、資格取得のサポートシステムのお話や、インストラクターの仕事だけではなく、入学から卒業までお客さまをサポートする受付スタッフや、館内に併設されているカフェ

「M-RO」でのホールやキッチンスタッフなど、さまざまな場面で活躍していただることをお話しすると、Mランドに対する関心をもつていただけました。

これからも、丹波篠山市とともにMランドは成長を続け、若い方々にとっても魅力ある企業を目指していきます。

お話を聞いて下さった皆さま、ありがとうございました。

もうひとつの我が家

Mランドでは、合宿で越しになられたゲストに滞在していただく宿泊施設を、「ホーム」と呼んでいます。

でいただきたい、そんな想いから「アットホーム」という意味も込めています。

人生一度の免許取得。またとないこの機会に、ゲストの皆さまには運転だけでなく、共同生活の中で、多くの学びや気付きを願っております。

ひとつには、「自立性」を養うこと。人との「コミュニケーション」能力を高めることで

同じ屋根の下で年齢や職業、国籍も異なる共同生活は、互いを尊重し、少なからず思いやりを育む環境となります。

人は関係性の中で生きています。人を思いやり、支え合い、良い影響をもたらすことで人は成長します。

自己中心的な考え方や、周囲への無関心は、交通社会はもちろん、一般社会においても、関係性を危うくしてしまいます。

そして、もうひとつ忘れてはならないのが、社会人としての規則正しい生活習慣。

とかく学生さんの中には、大学の講義のない日は「昼までお布団の中」に、という方もおられるようです。



「JR篠山口」 不安と期待をもって

家族と離れ見知らぬ土地で、初めての自動車の運転という、私たちの想像を超える緊張の中、ゆっくりくつろい

合宿生活では個々のスケジュールで自己管理し、三食の食事をとることににより、健康的な一日のサイクルを身につけることができるでしょう。

このようにホーム生活が、ゲストの皆さまにとって、これからの人生のよい転機となることを望んでいます。

「心を創る教習所」を目標として、譲り合う心、人や自然が喜ぶような運転ができるドライバーになっていただくよう、これからも私たちは取り組んでまいります。



「おかえりなさい！」とホームがお出迎え

【掃除に学ぶ会】のご案内

私たちと一緒にトイレを掃除しましょう。

7/11 (日) 八上小学校 西トイレ (AM8:00~9:00 担当:前川)

7/25 (日) 篠山中学校 運動場トイレ (AM8:00~9:00 担当:中野)

※参加していただける方は井本までご連絡ください。

丹波篠山を元気に！

営業リーダー 中野 聡

六月二十日、「みんなで行こう地域社会の発展と商工業の前進を！」をスローガンに、弊社も所属する丹波篠山市商工会青年部地域振興委員会の発案により、YouTube「ABCマラソンコースを青年部員でバトンリレーをして走ってみた」の撮影に、Mランドより三名の職員が参加させていただきました。

世界中で未だ猛威を振るっている新型コロナウイルス。

その影響は私たちの教習業務はもとより、市内の企業においても例外ではなく、商工業の休業や、ABCマラソン、デカンショ祭り、味祭りなど、さまざまなイベント中止を余儀なくされています。

今回の企画は、さまざまに出されたアイデアのうち、「ABCマラソンコース」を利用し、市内各企業のPR撮影しながら、約百メートルづつリレーするというものです。

バトンは各社オリジナルのものを利用し、次の企業へとタッチで繋いでいきます。

自動車販売店はタイヤ。塗装会社は塗装用ローラー。自動車教習所といえば「教習車」。各社思いもよらないバトンで、一番楽しんでいたのは参加者たちだったかも知れません。



「若いときならともかく、大変なんです」

過日行われた、青年部員の会議において、「お客様が離れてしまうのではないか」という危機感もあり、「このような中でも、丹波篠山の魅力を広く発信できないか」など、熱い討議がなされました。

を発信する一役を与えられたことに感謝しました。

人を喜ばせたり、楽しませたりすることは、仕事でもイベントでもおなじこと。まず自分が楽しむことを、ひしひしと感じることができたことに喜びを感じています。

このあと青年部から、当部会を卒業する南勝インストラクターへ、マグネットシールのサプライズがあり、そのお茶目さに周囲の人は大うけでした。



←これです
参加者の顔晴る姿はもちろん、自分のためにならなくとも、計画から実行まで人のため、地域のために、陰で努力された方々に、感謝も忘れてはなりません。

丹波篠山を元気にする企画は、今後も何らかのかたちで続き、私たちMランドも地域のお役に立てればと思います。

撮影終了後には、「立つ鳥跡を濁さず」。Mランド人らしく、ゴミ拾いをして気持ちよく帰社しました。



地元の社長さんたちとともに（左から二番目）

「心の偏差値」

（前略）
私は、人生では「頭の偏差値」より「心の偏差値」のほうが重要だと思っています。勉強は出来ないうちから一流大学に合格出来る「頭の偏差値」を持っていても、人の心の痛みが分からなければ、その人生は決して意義あるものとはなりません。ちょっとぐらい数学は出来なくとも、人の痛みが分かる思いやりを持ち、誰にでも明るく挨拶が出来る、そんな「心の偏差値」の高い人になれば、きっと幸せな家庭と大きな縁に結ばれた人生を築けるはずです。

それでは、どうしたら「心の偏差値」を高めることが出来るのでしょうか。

「心の偏差値」は、自分の時間や労力を他の人を喜ばせるために使うことで高まります。家庭であれば、幼いころから「お手伝い」の習慣をつけることです。掃除でも食事の仕度でもよいのです。お子さんのいる家庭はぜひ今日から、勉強より一日五分間でもお手伝いをさせてください。その体験が必ずお子さんの将来に生きてきます。

打算を持たずに自己犠牲を続けていると「心の偏差値」は

高まり、それに伴って周囲にもよい影響を与えられるようになります。つまり、「感化力は自己犠牲に比例する」のです。親であれ、教育者であれ、経営者であれ、人を導く立場にある人は、自ら率先して自己犠牲に励み、毎日薄紙一枚分でも「心の偏差値」を高める努力を続けましょう。それが自身の、周囲の人の幸せにつながります。

読後感

清水 千弘氏

私たちがしばしば犯してしまう誤りに、お手伝いをしたらお駄賃をあげるということがありました。動機付けにはいいかもしれませんが、こういふことを習慣付けると人間が打算になってしまいます。頭がいいこと、勉強が出来ることは違いますが、勉強が出来ても、英語が出来ても、尊敬されない人がたくさんいます。いつも打算的に行動してしまう人は、いくら数学や英語が出来ても、嫌われてしまいます。社会では、人の評価は他人がします。そのときに、その人の数学の能力や英語の能力など分かりません。心の偏差値が高い人こそ、社会の中で頭がいい人なのだと思えていただきました。